

編集 後記

編集顧問 町田豊平
編集委員 郡 健二郎

小川秋實 秋元成太 村井 勝
藤岡知昭 大家基嗣

過激なダイエット本がはやっています。最も話題になっているのは1日1食を続けると20歳も若く見えるようになるという内容の本です。50万部を超えるベストセラーになっているとのことですが、購入した読者がはたして実践できているかどうか疑問ですし、続けることに価値があるのでしょうか。とても不健康な気がします。1日に1回しか食事をしないなんて、私には絶対にできることはありません。と言いますのも私の人生における大きな楽しみの1つが食事とお酒だからです。朝食でもおそろかにしていません。しっかり食べますし、トーストにつけるジャムにもこだわります。昼食も捨てたものではありません。ラーメンやカレーライスにも限りなく広がるB級グルメの世界があります。

1日1食を続けるエンドポイントは、「若く見えるようになる」ことだそうです。そもそもこのエンドポイント自体がまったく私を引きつけません。若く見られたいと願っていないからです。男性の魅力は、人生の年輪を重ねて年相応に老け、歩んで来た人生の喜怒哀楽が顔面のしわ、白くなった髪、さみしくなった頭髪に表現されていると考えるからです。無理をして若く見られるように努力するなんて、男性の生きる道ではないと考えています。休日に若作りをして奥様と外出するのは次元が違う気がします。

荒木経惟氏の写真集に、男性の顔を撮影しただけのものがあります（男の顔面 文芸春秋社1999年刊）。

荒木経惟氏は1980年代に活躍し、当時の風俗や女性を撮影した写真集は有名ですが、決してプロのモデルは撮影しませんでした。モデルではない普通の女性を撮影して写真集にしていました。対象を男性に変えた訳ですが、この写真集のモデルも普通のオジサンです。1月の厳冬の中、新宿副都心、丸の内の街頭を歩くサラリーマンに声をかけて撮影されたものです。

男性の顔を撮影し、並べて写真集にして何が面白いのか、おそらく一般の読者は疑問だったに違いないし、おそらくこの写真集は売れなかったでしょう。しかし、この写真集を手についた私は当時、荒木氏はここまでたどりついたのか、と生意気にも感心しました。社会を支えているにもかかわらず、決してスポットをあびることのないオジサンたち。「夢は何ですか？」というアンケートに対しての答えは皆さん少年のままです。男性の顔の魅力は、無理をして若く見せる「努力」によって消えてしまうでしょう。自然体で、少年の心が失われていないからこそ、一瞬のきらめきが表現されているのだと思います。

私が強調する男性の魅力が満載された小説があります。タイトルは「三匹のおっさん」（有川 浩 著、文春文庫）です。女性作家ならではの視点で初老男性の自然体の愛しさが平易な言葉で表現されています。また、作家のファッションへのこだわりなどが、孫の言葉を通して表現されていてとても参考になります。

（大家基嗣）

臨床泌尿器科（第66巻 第12号）（通巻794号）
2012年11月20日発行（毎月1回20日発行）

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

定価 2,940 円（本体 2,800 円＋税 5%）

2012 年年間購読料

冊子版	41,780 円	冊子＋電子版/個人	46,780 円
電子版/個人	41,780 円	冊子＋電子版/共有	53,100 円
電子版/共有	48,200 円		

増刊号を含む13冊、税込、送料小社負担

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709

（担当：登・安部）

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp

振替口座 東京 00170-9-9